

経営比較分析表（令和5年度決算）

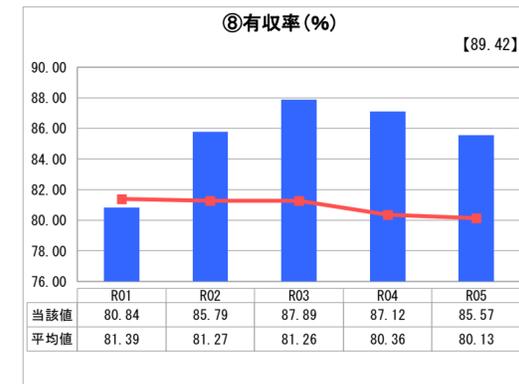
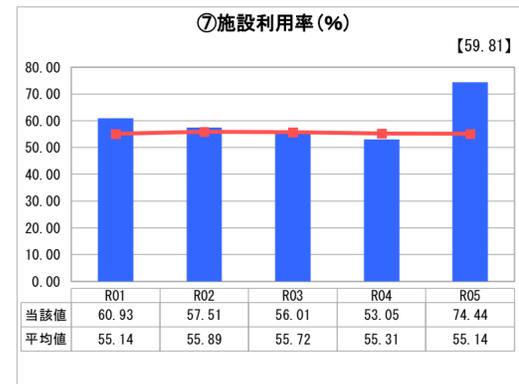
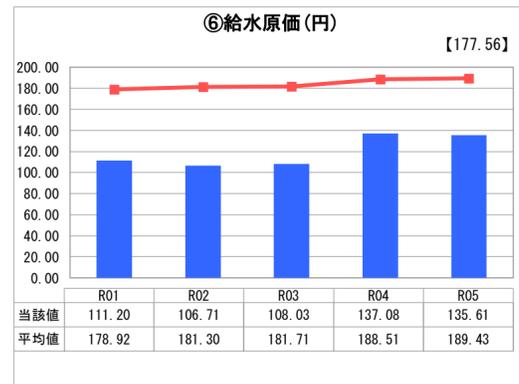
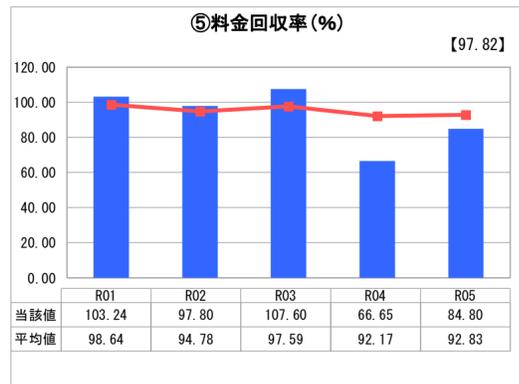
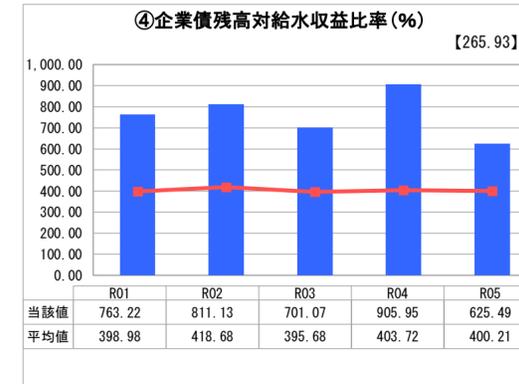
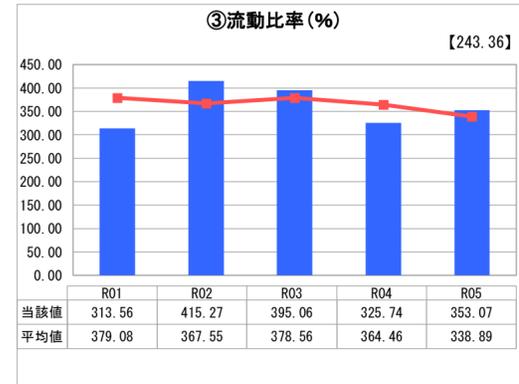
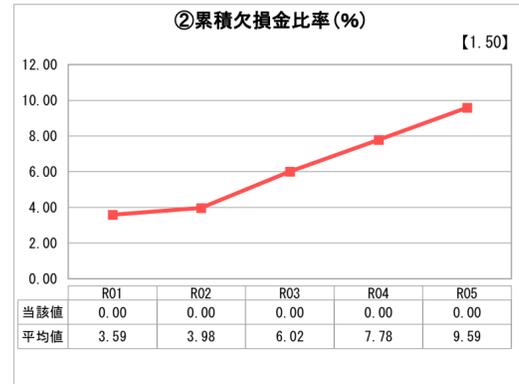
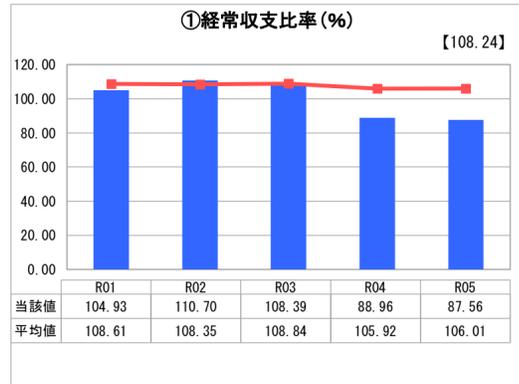
岐阜県 垂井町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	62.83	100.00	2,170	

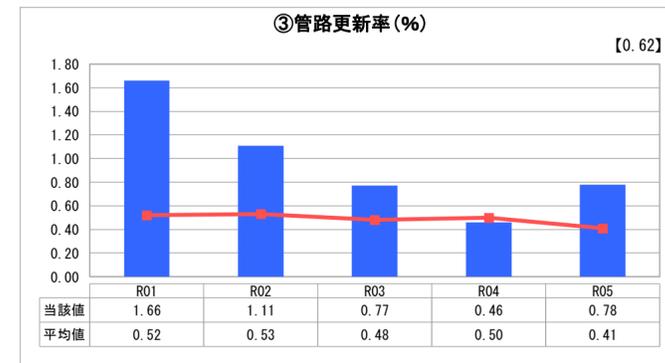
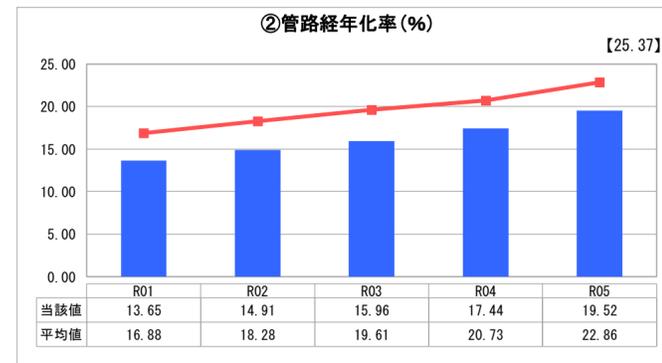
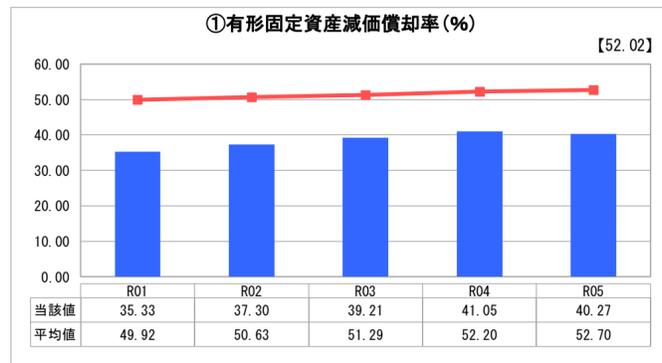
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
26,058	57.09	456.44
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
25,940	28.62	906.36

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
[]	令和5年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

・経営の健全性について
令和5年度より簡易水道事業は水道事業へ統合しましたので、旧簡易水道分の収益・費用等が追加されています。
料金回収率につきましては、令和4年度は水道料金のうち基本料金の減免を実施していましたが、当年度は実施していないため、前年度と比較して数値が上昇しています。しかし、前年度に引き続き電気代の高騰や簡易水道統合に伴う減価償却費の増加により費用が増加していますので、経常収支比率・料金回収率は100%を下回っています。
また、流動比率は前年度に引き続き100%を上回っています。簡易水道事業統合時には、企業債などの流動負債が少なかったため、前年度よりも数値は上昇しました。
企業債残高対給水収益比率につきましては、前年度と比較して数値が減少しています。これは、簡易水道事業の統合により給水収益が増加したことと、水道事業へ引き継ぐ企業債がなかったことが要因です。

・経営の効率性について
施設利用率は前年度と比較して20%ほど増加しました。これは、統合した簡易水道の施設利用率が統合前の水道事業よりも高く、統合したことにより利用率が大幅に高くなりました。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率、管路経年化率は類似団体と比較して良好な状態ですが、数値は増加傾向にありますので、法定耐用年数を超えた老朽管等の資産が増加しています。
また、管路更新率は類似団体と比較して高い数値ですが、管路経年化率は増加傾向にあり更新が追いついていない状態です。
今後、計画的かつ効率的な管路の更新に取り組む必要があります。

全体総括

当年度は、統合した簡易水道の減価償却費および電気代の高騰などにより費用が増加しましたので、経常収支比率および料金回収率が100%を下回り、赤字となりました。
今後は、老朽管等の耐用年数を超えた資産が増加していますので、修繕・更新などの費用の確保が必要となります。
さらに、人口減少・節水意識の向上により有収水量は減少し、給水収益も減少すると考えられます。今後も健全・効率的な経営を維持していくために、費用削減に努め、適正な財源の確保に努めます。